

関西学院大学 研究成果報告

2025年 5月 8日

関西学院大学 学長殿

所属： 教育学部
職名： 教授
氏名： 齋木喜美子

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☒ 特別研究期間 ☐ 自由研究期間 ☐ 大学共同研究 ☐ 個人特別研究費 ☐ 博士研究員 ※国際共同研究交通費補助については別様式にて作成してください。
研究課題	沖縄児童文学史研究
研究実施場所	琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科
研究期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日 (12 ヶ月)

◆ 研究成果概要 (2,500字程度)

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

申請者は2024年4月1日から2025年3月31日までの一年間の特別研究期間において、①日本統治下の外地および米国施政権下の沖縄における教育・文化実践について掘り下げ、実践の実態や課題を明らかにすること、②沖縄の復帰前後から現在までの児童文学の変遷を辿り、その連続性と不連続性を明らかにすることの2点を研究目的として研究に取り組んできた。上記課題については前年度から準備を進め、琉球大学人文社会学部アジア文化学科にて特別研究員の申請を行い、同大学図書館、研究員演習室にて研究活動に従事した。この間のおもな研究成果は以下の通りである。

【国際学会、学術会議】

- ・第16回アジア児童文学大会を開催(大会実行委員長：齋木喜美子、於：西宮上ヶ原キャンパス、2024年8月24・25日)
- ・同大会にて「戦後沖縄の教育・文化復興にみる台湾引揚者の文化資本とその系譜」(齋木喜美子、於：西宮上ヶ原キャンパス、2024年8月24日)を研究発表
- ・第8回東アジア日本研究者協議会国際学術大会に招聘(於：台湾・淡江大学淡江キャンパス、SEGA共同パネル「物語空間におけるモビリティ：日本と台湾の児童文学における鉄道旅行の特徴」にコメンテーターとして参加、2024年11月9日)

【国内学会】

- ・沖縄文化協会2024年度研究大会にて「戦後初期の児童文化活動の萌芽に見る戦前との

連属性 — 金城順亮を手がかりに」を研究発表（於：名桜大学、沖縄文化協会、2024年6月30日）

- ・第157回日本児童文学学会関西例会、ラウンドテーブルにて「15年戦争期東アジア児童文学の諸相 — 沖縄の事例から」を研究発表（於：大阪府立中央図書館、2025年3月23日）

【著書】

- ・齋木喜美子編著『絵本で読み解く 保育内容 言葉』（関西学院大学出版会、2025年3月）
分担執筆箇所：齋木喜美子「はじめに」、第1章「子どもと言葉」、第5章「言葉を育てる環境」、第8章「『絵本で読み解く 保育内容 言葉』実践編、「おわりに」
- ・三島わかな編『メディアのなかの沖縄イメージ — 文化創造の100年』（七月社、2025年4月）、分担執筆箇所：齋木喜美子「『女学生の友』が醸成した「沖縄」観と功罪 —
一九五〇～七二年の少年少女雑誌」

【辞典執筆】

- ・「おもちゃ・玩具」「幼児向けデジタルコンテンツ」の2項目（各1200文字）について執筆（『教育方法学辞典』日本教育方法学会編、学文社、2024年10月）

【その他】

- ・琉球新報社主催「琉球新報児童文学賞」審査委員を務め、選考評を同新聞に掲載

上記に示した以外にも、一昨年から共同研究として取り組んできた近現代日本教員史研究会に参加し、担当した1950年代の教師の子ども観について、「戦後沖縄における教育復興と子ども — 金城順亮の実践に見る子ども観」の章を執筆し、第2回の修正原稿を編集委員会に提出することができた。この研究期間に、資料だけでなく金城氏の遺族から直接聞き取りを行うことができ、貴重な資料を提供いただけたことは原稿執筆にとって大変有意義であった。今後も引き続き調査を継続し、編集委員会でのコメントをふまえたうえで、さらに一年かけて修正・加筆を行い、2026年3月に予定されている完成原稿の提出を目指したい。

また昨年度は、本学の上ヶ原キャンパスにおいて国際学会を開催できたことが、本研究期間の大きな研究成果であった。この大会を通して東アジアの研究者たちと交流を深め情報共有を行うことができたため、11月に台湾で開催された第8回東アジア日本研究者協議会国際学術大会に招聘される契機となった。また本学術大会では、沖縄の文学や歴史研究に取り組む台湾の若手研究者と交流する機会を持つことができ、今後は研究協力者、情報提供者として協働していく見通しが得られた。さらには、大会日程に合わせて実施した台湾の図書館における『台湾日日新報』資料調査で、沖縄出身者の喜友名(石島)英文が『台湾日日新報』に投稿した作品を発掘することができた。これらの作品は英文の著作や先行研究でも言及されていない新資料であり、英文の作品成立過程を知る手掛かりとなった。その調査結果の一部は、3月に行われた第157回日本児童文学学会関西例会のラウンドテーブルでの報告に繋げ、国内の研究者と議論することができた。今回の国際学会の開催経験が、今後の研究にとって大変有意義なものとなったことは間違いない。次年度は韓国で行われる予定の第9回東アジア日本研究者協議会国際学術大会にて、新たな研究課題のパネルセッションを共同で発表することになったので、さらに研究と交流を深めていきたい。

一年間、琉球大学を拠点に資料調査に集中でき、インタビューや国内外の学術大会を契機

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

※個人特別研究費：研究費支給年度終了後2ヶ月以内 博士研究員：期間終了まで

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※特別研究期間、自由研究期間の報告は所属長、博士研究員は研究科委員長を経て提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。